



### 新生会第一病院・在宅透析教育センター



宮下美子看護師長



門嶋洋子看護師



牧野範子看護主任

### ■ 在宅透析教育センターの役割

在宅透析教育センターでは、在宅血液透析および在宅腹膜透析患者さんに対する透析知識や透析手順の教育はもちろん、これら在宅で透析を実施する患者さんの管理も行う。このため、24時間オンコール体制を敷いて確実・安全な透析の推進に努めている。あわせて、外来・入院の透析導入患者さんの教育、維持期の患者さんでセルフケア不良例の再教育、新職員・研修生などのスタッフ教育など幅広い役割を担っている。さらに、保存期の患者さんを対象に、末期腎不全の治療選択として血液透析(施設透析・在宅透析)、腹膜透析、腎移植があることを紹介し、将来患者さんと家族が治療の種類を選べるよう支援している。

患者教育などに用いられる教材の制作も同センターの役割で、テキスト、パンフレット、マニュアル、透析装置模型、臓器模型、説明用パネルなどは手作りのものが多い。中には、視覚障害のある患者さんのために、説明用の胸部X線写真に指でなぞれるようミシン目を入れるなど、独自の工夫を凝らしたものが多い。主なテキストは出版社から出され、書店でも販売されていることからその水準の高さがうかがえる。また教材は、長く受け継がれ使用されているものもかなりあり、このようなところにも看護部のビジョンにあげられた「歴史と専門性」が感じられる。



図1:教育用テキスト

同センターに勤務する看護師は、患者さんのあらゆる疑問や不安に応える必要があるため、自然に一定以上の経験



がある看護師が配属されることになる。2008年4月から同センターに勤務する門嶋看護師は、透析室の勤務経験は5年以上であるが、経験15年以上の先輩看護師の前では新人ということになってしまう。そのため、学ぶことばかり多いうえ、患者さんとの対話にも人生経験の必要性を痛感するという。しかし、そのような苦労の中でも、「患者さんと接し経験を積むことで、自分自身も成長できるように思われます」と「看護の醍醐味」を披露してくれた。

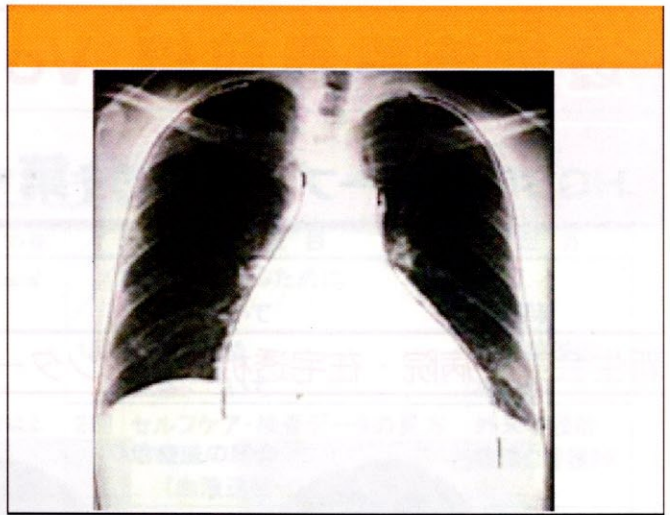


図2: ミシン目入りX線写真

## ■ 在宅透析教育センターのカリキュラムと運営

在宅透析教育センターのカリキュラムは、血液透析導入期の指導を例にとると、一般患者さん向け、高齢患者さん向け、糖尿病性腎症患者さん向け、理解困難な患者さん向けと、患者さんの理解度に合わせてカリキュラムのメニューが選択できるようになっている。教育カリキュラムの内容は、講義と実技からなり、講義ではセルフケア、腎臓の構造と働き・腎不全、透析中の合併症、検査データ、透析中の異常・事故災害時の対応、家族指導など14項目、実技では血圧・体重測定、自己管理ノートの記録、シャント音の聴取の3項目がある。

カリキュラム開始に際しては、透析導入という大きな節目を通過しなければならない患者さんの疾患受容の程度を見極めながら実施する。このため、受容が十分でない患者さんにはパンフレットを手渡すにとどめたり、新生会第一病院の血液浄化センターで「プレ教育」としてパンフレットや説明ビデオを視聴したりしてもらいながら受容を待つ。受容が十分と判断された患者さんには、同教育センターの看護師や管理栄養士が、マンツーマンによる対面指導を実施することになる。このように細心かつ綿密な患者教育が行われているが、それにより「患者さんの主体性が育まれセルフケアの質も向上します」と宮下看護師長は語った。

宮下看護師長は理解が困難な患者さんに対する指導のポイントは、治療の必要性和トラブルの内容・対処法だという。透析は「患者さんのからだに必要である」ことを理解してもらい、透析日を必ず守るよう十分説明する。また、シャント感染などのトラブルが発生したときには、具体的な症状などをあげ「こんな症状が出ればすぐに病院に連絡してほしい」と伝えるようにしているそうである。

透析に従事する看護師の教育も、同教育センターの役割である。毎年4月に病院主宰で行われる新人教育で実施するほか、中途採用者やグループ内の異動で透析室に配属された看護師に対し、3日間の集中研修を実施している。この研修では、例えば安全確保のための基本ルールとその根拠、腎不全の病態など、OJTによって学べる具体的手技以外の知識の習得を目指している。



図3: 教育風景



## ■ 在宅血液透析患者さんへの指導と支援

血液透析は、血液を一度体外に出して行う治療法であるため、操作ミスなどが思わぬ事故につながりかねないという。このような血液透析を自宅で実施するには、患者さんの在宅血液透析に対する強い希望と、徹底した患者教育と細心の支援が必要であることはいままでのない。しかし、在宅では患者さんの希望する時間帯に行えることや、1回の透析に十分に時間をかけられるなどのメリットが大きい。

新生会第一病院在宅透析部門の目標は「安全、確実」であることから、在宅血液透析患者さんに対するカリキュラムでは、基本操作を身につけた後、トラブルの対処に重点を置いている。数多いトラブルの対処法を、一度に習得することは困難であるため、病院内で行われる3週間の基本訓練終了後、1つのパンフレットで1つのトラブルを解説する形式で、具体的な透析装置の画面をあげ、「画面にこの表示が出れば、このボタンを押す」といった方法で、具体的に時間をかけて少しずつトラブルの例を追加しながら教育する。

患者さんの支援に関しては、24時間オンコール体制を敷くとともに、患者さんには「体に異常があるとき」、「体以外に異常や困ったことがある時」に分けて詳細な一覧表が配布されており、一覧表にあげられた異常を感じたら、いつでも連絡するよう指導している。牧野看護主任は「在宅血液透析や腹膜透析では、治療を自宅に持って帰ることになるので、家族を含めた生活の調整が大切になります。またお互いの信頼関係も重要です。患者さんとしてではなく、その方の日常生活がベースにあり、その上に治療が加わっているというのが実感です」と語った。